

教育センター便り

長野市教育センター
長野市大字鶴賀550番地2
TEL 026-226-7486
FAX 026-264-7570
責任者 今井 睦俊



みんなが楽しそう
よかった
よかった

ぼく 役に立っている
「ぼう」と協力して
ぼく こくばん
ぼくにはって
書いて

先生 いつもぼくに
いろいろな色の「ぼう」で
カキカキカキ
ぼくを使って みんな
なっとく

ぼく こくばん

豊野東小学校 四年
高山 眺羽

非認知能力と認知能力の 一体的伸張

教育次長 唐木 英俊



本年度4月より、第三次長野市教育振興基本計画の学校教育分野における実施計画に位置付ける「しなのきプランII」がスタートしました。

前プランの「しなのきプラン」は、1期を3年とする3期9か年計画でした。その第1期では、学力を長野市の市木である「しなのき」に例え、知識・技能、活用・思考力・判断力・表現力等を「葉」や「幹」とし、特に大切にしたい学力である意欲・態度を「根」として位置づけました。第2期では、こうした学力観のもと、知徳体をバランスよく育むことに重点を置きました。そして、第3期では、AIの発達等、社会の急速な変化に加え、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大に遭遇し、「困難な状況下でも『学び』を自ら進め、未来社会を切り開いていく」自学自習の資質能力の伸張に取り組んできました。そして、本年度よりスタートした「しなのきプランII」では、この自学自習の資質能力を「自ら問いをもち、自ら学びを進め、共に育っていくための資質・能力」として再定義しました。そして、これまでも本市で大切にしてきた意欲や態度等の非認知能力を育み、認知能力としての学力等を支えることで、自学自習の

資質能力がより一層伸張されると思えました。

この非認知能力とは、新たな概念や言葉ではなく、これまで我々が大切にしてきた「粘り強さ」、「コミュニケーション力」、「規範意識」等で、言い換えれば「心」にあたるものと言ってもいいかもしれません。この非認知能力にかかわって、しなのきプランIIでは、信州大学と共同開発した調査「しなのきFinder」を導入することといたしました。この調査は、世界的に実施されているSDQ（子どもの強さと困難さアンケート）を取り入れ、子どもの状態や非認知能力を測定するものです。この調査の目的は、非認知能力の評価ではなく、大人は「子ども理解を深める」こと、子ども自身は「自己理解を深める」ことにあります。

これまでも、私たちは子どもの様々な姿から、「積極性がある」「粘り強い」等と子どものよさを認め、そのよさを伸ばそうとしてきました。しかし、なかなか言葉や行動として表せない子どもには、十分な声かけができない面があったかもしれません。今回導入する「しなのきFinder」は、こうした子どもの内なる声を聴く調査でもあります。

調査後、子ども一人一人の調査結果である「個別レポート」を一つの材料として、教師と子どもが、あるいは、保護者と子どもが対話を行います。その対話の中で、子どもが自分のよさを感じられるようにし、今後伸ばしたい非認知能力を意識して生活していくことで、非認知能力と認知能力が一体的に育まれていくと考えております。何卒、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

初任者研修「夏期研修」

7月31日～8月2日の3日間、夏期研修を実施しました。初任者が、様々な体験的活動を通して、教師と子どもの両方の視点で考え、学び合うことができました。



【3日間の研修内容】

31日

- ・防災教育研修
- ・地域素材研修（田辺智隆先生）

1日

- ・近藤守教育長職務代理者の講話
- ・自己課題追究研修 ・夏季大学視聴

2日

- ・松代地区班別研修 ・振り返り研修

【夏期研修全体を通しての感想】（抜粋）

- 授業のつくり方、生徒との関わり、学校職員としての責務、たくさんの内容を学ばせていただきました。この研修で「仲間を大切にする、仲間と協力する、仲間から学ばせていただいた」ことがこれからの武器になっていきます。
- 田辺先生のお話にもあった「見ようとしなければ見えない」と同様、「仲間づくりの行動を起こさなければ、仲間はできない」のだと感じた。
- この3日間で「新たな視点」でものを見られるようになったと気付いた。子どもの視点になること、自分で考えること、経験することは事前の学びや知識があるとより面白さを感じたり学びが深まったりすること。他の先生方の視点から自分の授業を良くしていくための方法を考えられたこと。1つの視点で見ているだけでは物・人の本質に気付けないこと、など。
- 全体を通して、私は自分の視野をさらに広くすることができたと思う。自分が感じたことや、得た知識を生徒に還元したい。学び続けることができるのが教師であると思う。そして、それをいつでもアウトプットできるのも、また教師の魅力だと考える。

3日間を通して、活動班やグループで研修をする機会が多く、研修の運営も班ごとに担当し、会の進行や受付等を協力して行いました。自らの研修をよりよいものにしていこうとする主体的な姿が、さまざまな場面で見られました。（小林 由起子）

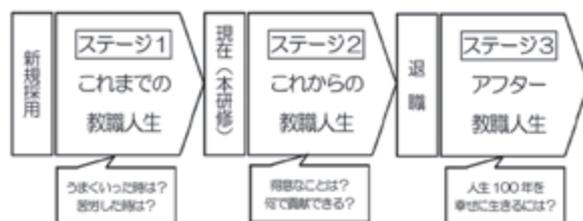
キャリアアップ研修Ⅳ （貢献力向上研修）

長野市教育センターでは、教職員のキャリアステージに応じた研修を行っています。50歳代、60歳代の教職員を対象に、学校づくり推進のための経験者の役割について研修する「キャリアアップ研修Ⅳ」を7月に実施しました。

【研修講座の内容】

講義・演習「マイスターへのキャリアパス」

- ①これまでの教職人生を振り返る
- ②これからの教職人生で目指すマイスター
- ③アフター教職人生を展望する



講師 信州大学特任教授 青木 一 氏

定年退職が延長されていく今日、これまでの教職人生を振り返った上で、これからの教職人生で貢献できる方向を考える機会が必要です。そして、アフター教職人生も展望できる貴重な研修でした。



◇受講者の感想から

- ・若いころのように、ワクワクしながら考える機会になったことがよかったです。
- ・最近、安定思考で日々過ごしている感があるが、それでもここからもう一度キャリアアップできるであろうし、そうしていったみたい気になりました。
- ・定年後の長い人生について、具体的に考えていかねばならないと感じることができる研修であったと思います。
- ・周囲に貢献できることが長く続くことは、幸せであると改めて感じました。

50歳代、60歳代の先生方には、重点講座として位置付けている「キャリアアップ研修Ⅳ（貢献力向上研修）」の受講をお願いします。（宮澤 剛彦）

令和6年度 教育研究委員会の授業公開一覧
長野市教育センター教育研究委員会

共通テーマ 「自学自習の資質能力の育成」				
委員会	期日 ◇授業公開 ○研究会	学校名 授業者	学年・組 単元名等	授業内容
研究委員会	委員会テーマ 「自己を見つめ、他者と関わりながら、よりよく生きようとする児童生徒の育成 ～考え、議論する道徳の授業づくりを通して～」			
	10月25日(金) ◇14:40～15:25 ○15:50～16:40	保科小学校 佐藤 伸一 教諭	6年松組 「ここを走れば」 (規則の尊重)	身の回りには沢山の約束事があるが、それらの約束事は社会の秩序を維持し、互いの生活や権利を守るために不可欠なものであることや、それらを尊重することの大切さを理解し、よりよい社会をつくろうとする心情を育む。
	11月6日(水) ◇9:45～10:35 ○10:50～11:40	東部中学校 中村 直樹 教諭	2学年 「カーテンの向こう」 (思いやり・感謝)	思いやりとは何かを、「ヤコブ」の行動や「私」の心情を通して考える。
研究委員会	委員会テーマ 『粘り強い自己追究を通して、「できた」「わかった」「やってみよう」がにつながる国語の授業』			
	11月18日(月) ◇10:50～11:35 ○11:40～12:25	昭和小学校 若林 悠実 教諭	3年4組 「食べ方のひみつを教えます」	「すがたをかえる大豆」の学習を通して、説明文の工夫を見つけた子どもたちが、今度は自分たちで姿を変える食品について説明文を考え、綴っていく。
	11月28日(木) ◇10:50～11:40 ○11:50～12:40	川中島中学校 上條 祐輔 教諭	2年7組 「絵画の魅力伝えよう」	選んだ絵画の魅力が伝わるように、観点をもとに文章をまとめる。
研究委員会	委員会テーマ 「社会とのつながりを感じ、見通しをもちながら自ら関わりに行く児童生徒の育成」			
	10月24日(木) ◇13:25～14:10 ○14:15～15:00	通明小学校 塚原 昌裕 教諭	6学年 「江戸幕府と政治の安定」	設定した「単元を貫く問い」に迫る過程で、予想したことや資料から読み取れた内容などを友と共有することによって、児童それぞれの「社会的な見方や考え方」をより育めるような授業を目指す。
	10月16日(水) ◇10:30～11:15 ○11:25～12:10	柳町中学校 山口 僚馬 教諭	2学年 「日本の諸地域」	同一題材(中部地方)を全員で教材研究・授業実践し、委員の中でアップデートしながら授業実践を重ねる。
研究委員会	委員会テーマ 「子どもたちの主体性を育む算数・数学の支援～自ら問いを設定する学習を通して～」			
	9月20日(金) ◇13:45～14:30 ○14:45～15:15	南部小学校 阿部 将樹 教諭	6年3組 「データの整理と活用」	「子どもが問いを持ち、言語活動を充実させていく授業づくり」を個人テーマとして設定した。日常生活や社会の事象を数学的に考察する授業を考えている。
	※この授業公開は研修講座No.4131「小学校 みんなで学び合う算数の授業づくり」とあわせて行われます。参観を希望される方は研修講座にお申し込みください。			
研究委員会	委員会テーマ 「子どもたちの主体性を育む算数・数学の支援～自ら問いを設定する学習を通して～」			
	10月9日(水) ◇10:05～10:55 ○11:10～12:00	東北中学校 西澤 雄貴 教諭	1年1組 「比と比例式」	自主的・主体的に学ぶ姿勢を育むための授業づくり」を個人テーマとして設定し、話し合いや意見交換する場を通して、より深い考えを持つことができる授業。
	※この授業公開は研修講座No.4131「小学校 みんなで学び合う算数の授業づくり」とあわせて行われます。参観を希望される方は研修講座にお申し込みください。			
研究委員会	委員会テーマ 「子どもが主体的に問題解決していく理科学習」			
	10月10日(木) ◇13:50～14:35 ○14:40～15:25	裾花小学校 竹内 輝 教諭	5年3組 「流れる水のはたらき」	流れる水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら、土地の変化を調べる。
	12月13日(金) ◇8:45～9:35 ○9:45～10:35	三陽中学校 増尾 知之 教諭	2年2組 「天気とその変化」	新聞のデータベースを用いて、過去の気象災害における気候条件や天気図等を調べる。
研究委員会	委員会テーマ 「子どもが動く！心が動く！英語の授業づくり～子どもが主体となる授業の工夫～」			
	11月1日(金) ◇10:45～11:30 ○11:35～12:22	城山小学校 湯本裕太郎 教諭	5年1組 「Unit 6 Where is the library?」	子どもが考えや気持ちを伝え合いたくなる教師の学習指導
	9月2日(月) ◇13:30～14:20 ○14:30～15:05	篠ノ井東中学校 宮尾 葉子 教諭	1年4組 「Unit 4 Our New Friend.」	主体的にコミュニケーションを図り、自分の伝えたいことを伝え合うための言語活動の工夫
※この授業公開は研修講座No.4162「伝えたい！知りたい！から始まる英語授業」とあわせて行われます。参観を希望される方は研修講座にお申し込みください。				
研究委員会	委員会テーマ 「『自ら学び 共に育つ』体育学習の在り方 - 体育・保健体育のチカラ再考 -」			
	11月19日(火) ◇14:40～15:25 ○15:40～16:30	柳原小学校 小林 祐太 教諭	6年2組 「B 器械運動 ウ 跳び箱運動」	ICTの活用と場の工夫を主な視点として、児童一人一人が自己の課題に応じ、主体的に学ぶ授業を創造する。
	10月7日(月) ◇13:25～14:15 ○14:30～15:30	櫻ヶ岡中学校 柳沢 新 教諭	1学年 「B 器械運動 エ 跳び箱運動」	技能の習熟度等の様々な違いを越えて、すべての生徒が「繰り返し挑戦したくなる」授業を創造する。

☆参加申込は校支援文書管理で送信(8/19付)してある「FAX参加申込票」を、その都度お使いください。(参観のみも可能です。)
☆お問い合わせは、TEL 223-0070 長野市教育センター研修研究担当まで。(宮澤剛彦)

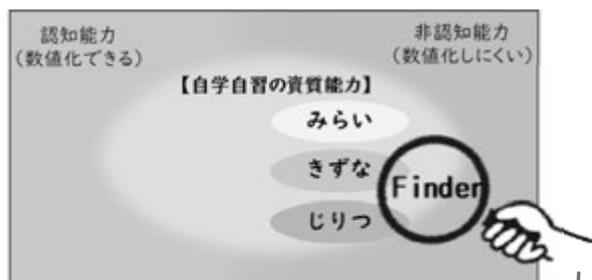
「しなのきプランⅡ (R6～R8)」がスタート！！

～認知能力と非認知能力を一体的に育む～

【目指す子どもの姿】 自ら学び 共に育つ～ウェルビーイングの実現～

令和6年4月から3か年計画として取り組む「しなのきプランⅡ」では、子どもたちが、自ら主体的に学び 他者と関わりながら共に育っていく姿を目指します。本プランでは、新たな調査『しなのき Finder』を導入し、子どもの状態を把握し、【子どもを観る・子どもの声を聴く・子どもと対話する】ことを通して、一人一人に適した環境づくりを推進します。あわせて、非認知能力を意識した教育活動の工夫や授業改善を推進し、全ての子どもたちの【自学自習の資質能力※】の伸張を支援してまいります。

※【自学自習の資質能力】…「自ら問いをもち、自ら学びを進め、共に育っていくための資質・能力」



【自学自習の資質能力】の位置づけ

【自学自習の資質能力】3つの観点

- 【みらい】 未来に向かって自分を高める
- 【きずな】 他者を思いやりつながら
- 【じりつ】 自分をよりよい状態にする

しなのき Finder※により子どもの状態を把握する
※子どもの状態や非認知能力を測定する調査

【しなのきプランⅡ「4つの重点プロジェクト」】

未来プロジェクト…発達段階に応じた教育の推進

(主体的に取り組む探究的な学びの推進、非認知能力を育む取組を支援など)

絆プロジェクト…インクルーシブな学校づくりの推進

(互いに認め合い多様な個性が活かされる教育、個に応じた支援の充実など)

安全・安心プロジェクト…安全・安心で健やかな成長を支える環境の整備

(子どもファーストな環境づくり、自分の身を自ら守る資質・能力の育成など)

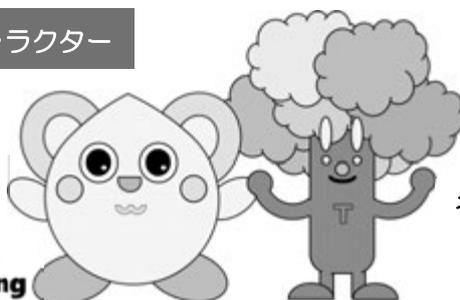
充実プロジェクト…教職員の資質・能力の向上

(「学びたい！」が学べる研修の充実、先生たちのウェルビーイングの実現など)

しなのきプランⅡイメージキャラクター

ウェルビィ

Well-being



※長野市教育委員会事務局が作成
各校でご自由にご利用ください

名前：ティリアン
(しなのきの学名から)

川中島白桃をイメージ

「？」をモチーフとした耳で「問い」を表現
桃色の丸形で「幸福感」や「包摂性」を表現

しなの木をイメージ

「！」をモチーフとした目で「わかる、できる」を表現
濃淡をつけた葉で「多様性」を表現

しなのきプランⅡに関わって、①実施済のピアカフェの内容、②中山芳一先生による非認知能力のお話、③しなのきFinderの解説などを長野市教育センター研修・研究担当のページから、オンデマンドでご覧いただけます。



URL <http://www.school.nagano-ngn.ed.jp/edcenter/Manabi/JigakuJisyuShien/ShinanokiJutenProjekut.html>

☆しなのき Finder の目的

子どもの状態を把握→子どもが安心して過ごせる環境づくり

- 子どもをより深く理解
- 個に応じた指導・支援
- 授業改善



先生

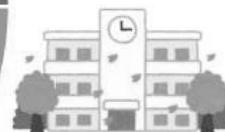
子ども

- よりよく自分を知る
- 物事の見方の変化
- 取組の向上

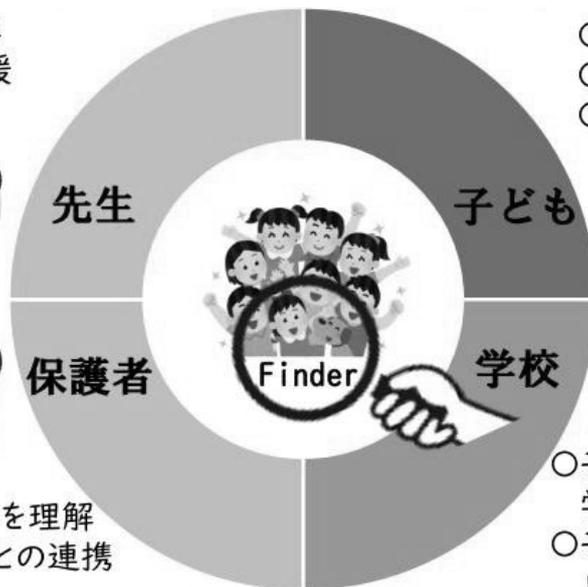


保護者

学校



- 子どもの状態や強みを理解
- 子どもを支える学校との連携



- 子どもの実態に合わせた学校運営
- 子どもがありのままの姿でいられる場

☆「しなのき Finder」で非認知能力を見える化

「しなのき Finder」の大きな目的は「子どもの状態を把握」することです。この調査では、数値化しにくい子どもの状態を測定し、大人は「子ども理解」、子どもは「自己理解」に役立っています。この調査は、「安心して過ごせる環境」や「周りの人との関係」など、学びの土台となる環境に関する質問項目と、「自ら学びを進めるための学習意欲」や「学習スキル」などの学習に関する質問項目により構成されています。右の二次元コードから主な質問項目がご覧いただけますので参考にしてください。



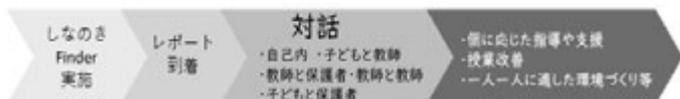
↑ 質問項目がご覧いただけます ↑



左の二次元コードより「しなのき Finder」の解説が動画でご覧いただけます。



《活用の流れ》



前輪:テスト結果など、数値で表せる「認知能力」
後輪:数値化しにくい子どもの状態「非認知能力」

調査結果(個別レポート)は、回答時の子どもの状態を示しています。学力検査などの「得点」のように扱うのではなく、教師はレポートをもとに、子どもや保護者、周りの先生と対話をし、個に応じた支援や環境づくり、授業改善等に役立てていくことが重要です。

「しなのき通信」5月31日号より

「しなのきピアカフェ」がオープン！！
～子どもの「安心感」が、さらに高まる学校を目指して～



「ピアカフェ」の“ピア”は、『仲間・同僚』という意味だけど、
「しなのきピアカフェ」ってどんなことをやるのかな？



「しなのきプランⅡ」と「しなのき Finder」に込められた願いや研究指定校、市立長野中の実践を、

「共有」と「情報発信」

する場です！



しなのき
ピアカフェ
とは？



先生方がもつ素朴な疑問をぶつけて答えてもらったり、お互いの考えを語ってもらったりする等、気軽な気持ちで、

「双方向の対話」

をする場です！



5/24 第1回テーマ：「しなのき Finder」が目指すもの
信州大学教育学部 茅野 理恵 准教授に
「しなのき Finder」への思いを共有していただきました！



茅野准教授

主観的 Well-being

一人ひとりが個人の感覚や認識で感じる(例)人生への満足度、嬉しい、楽しい等

客観的 Well-being

統計などの客観的な数字を基に測る(例)平均寿命、生涯賃金、失業率等

「Well-beingの実現が、非認知能力の高まりにつながる」

⇒子どもたちが「安心を実感できる」環境づくりを大切にしたい

大人が子どもを知り、愛おしいと思う。他者から「自分はかけがえのない存在」と感じてもらうこと。

Finderで主観的 Well-being の状態を可視化し、1対1の対話場面を作る。子どもが「自分のために時間を作ってくれた」という思いをもつことができる。

レポート結果が似たような子どもでも、その裏にある背景は違う。一人一人の子どもの個別性や独自性が見えるまで、Finderを活用したい。

他者への寛容さが生まれる。他者との関わりが増え、チャレンジする心や意欲の高まりにもつながる！

子どもの
安心感

レポートを熟考する良さ

- ①教師自身の子どもを観るスキルが向上
- ②子どもを観る視点・観点の広がり
- ③教師と保護者で子どもを観るつながり

学級担任として、子どもの安全安心をキーワードでやってきたので、この取組の意義はとても感じています。今後は、先生方の安全安心も意識しながらやっていきたいです。



参加者の声

第1回ピアカフェの様子は、「長野市ポータルサイト」>「研修講座ポータル」>「補講・オンデマンド研修」から視聴することができます。



「しなのき通信」8月1日号より

7/26(金)第2回「しなのきピアカフェ」を開催!!

～子どもの「安心感」が、さらに高まる学校を目指して～



今回のテーマは、『「しなのき Finder」を活用した子どもとの対話』。信州大学教育学部 高橋 史 准教授に、「しなのき Finder」を行う目的や効果的な活用法を共有していただきました!



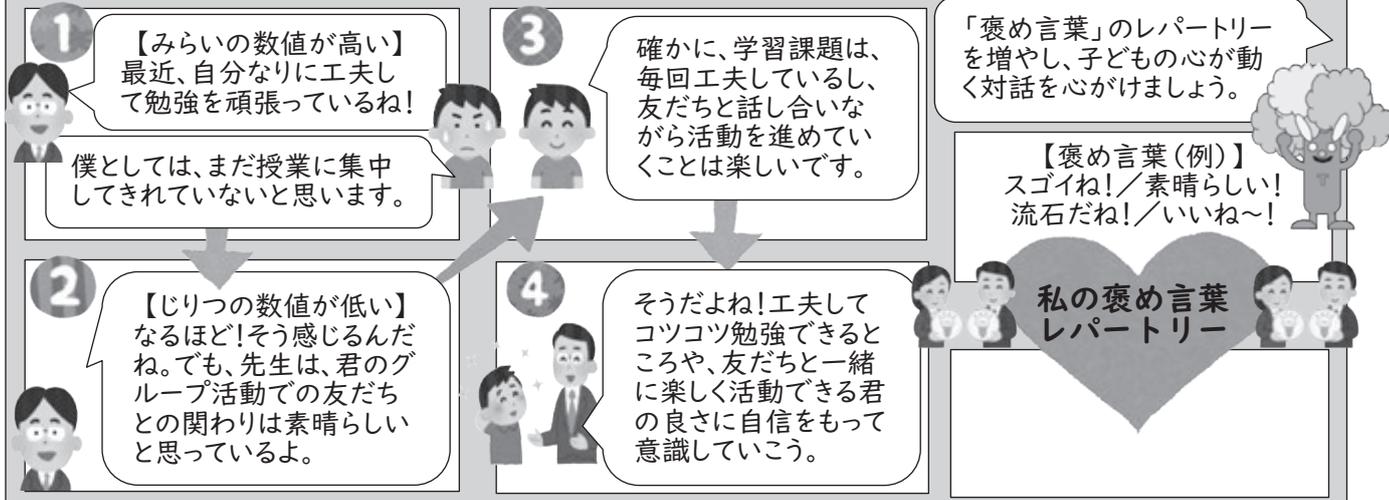
「しなのき Finder」の個別レポートを子どもへ返却する時、どのような点に配慮すれば良いのだろうか…?



高橋 准教授

「スキルタイプ」が同じでも、レポート結果に印字された「9つのウェルビーイング」「9つのスキル」には差異があり、個性が表れます。

レポートの返却は、先生と子どもが前向きな雰囲気の中、レポートを見ながら、その子の強みを共有し、意識して取り組みたいことを一緒に考え、今まで大人も子どもも気づかなかった新たな見方につなげることが大切です。



参加者の声

私は小学校の低学年担当なので、Finderには直接関係ありませんが、興味があり参加しました。高橋先生のリアルな想いを伺い、Finderの良さを実感できました。やはり、紙ではなく、言葉(声)で、想いや良さを聴く方が伝わると思います。保護者の皆さんも同じだと思います。

「しなのき Finder」のキーワードは、「褒めるきっかけ」。職員に対し、個別レポートの返却について説明する際は、「生徒を褒めるきっかけ」にして欲しいと伝え、子どもの良さを伸ばしたいです。

「しなのき Finder」は、1つの資料として、多面的に子どもを観ていく参考となると思います。いろいろな角度から子どもを観て、その子の可能性を引き出し、その子を観ているつもりで、見過ごしてしまいがちなところに気づいていく。そんな子どもとの関わりを大事にしたい。

第2回ピアカフェの様子は、「長野市ポータルサイト」>「研修講座ポータル」>「補講・オンデマンド研修」から視聴することができます。



教育相談室から ～通常の学級 特別でない配慮～

“通常の学級に軸足を置く”これは5年ほど前から就学相談やその着地点である教育支援委員会のモットーです。私たち教育相談室の相談員は、受け持ちのケースにおいては原則必ず学校（園）での参観をします。勿論、相談対象のお子さんを観察するのが目的なのですが、当然のことながら学級の様子も同時に見ることになります。困り感や個人因子（その子の特性）と環境因子（学級は大きな要素）という2つの要因から生起すると言われていています。担任の先生の配慮は、その子は勿論、学級全体にも注がれます。

小学校1年生の○男さんと彼の在籍する学級の事例です。○男さんはLD等通級の判断を受けており、授業中の離席やロッカー等の高いところに登ってしまうことのあるお子さんです。国語の時間（[音読]と[ひらがな]の学習）です。

授業はいくつかの塊にユニット化されていて決して1つの課題を引きずらず、メリハリをもって構成されています。[音読]は教室の列毎に教科書の1パラグラフを立てて音読し終わると座ります。次に教室を半分に分けて同様の活動をします。続いて先生から指定された列の一人ずつが、前から順番に同様の音読をします。それぞれが自分の順番が分かる状況の中で、多少の緊張感を伴いながら前の友だちの読みを集中して聞いて自分の順番を待ちます。○男さんも含め、皆学習に集中します。そのような学級のダイナミクスの中で、○男さんも自然に学習参加するようになります。

見方を変えれば、これはまさに集団のSSTです。つまり順番を待つ、皆と速さを合わせて音読する等々、SSTの要素そのものです。取り出しのSSTを行うのではなく、特別の教材を用意するわけでもなく、このように教科学習の中でもいくらでもできるのです。

次のユニットは[ひらがな「な」]の学習です。そこに入る前に先生は短い読み聞かせを入れるのです。毎日続くシリーズもの。子どもたちは楽しみにしていたようで興味津々です。終わると残念がる声が上がります。低学年には必要なリフレッシュタイムです。先程の立つ-座る音読でも、体を動かすリフレッシュを同時に行っているのです。

「な」は黒板四分の1ほどの大きなカードに筆順別に色を変えて提示されます。空書きは「いち、に…」と声を合わせます。最初はゆっくりで次第に早くなり、よそ見はできません。先生の指先の動きに皆が集中します。

先生は禁止言を一切使いません。○男さんが離席しても「○男さん…」までです。彼は必ず先生を基地として戻ってきます。給食前に○男さんは「たかいところにのぼったかカード」に、先生と一緒に午前中を振り返って記入します。「1かい」と自己評価。周りの友だちも「うん、1回」とフォローします。○男さんを学級全体が自然に理解し見守っています。

担任の先生はこうした特別でない配慮を日常的に行っているのです。その中で子どもたちは○男さんを含む友だち同士をお互いに認め合い、真摯に学び合える学級が築かれていくのです。この事例は、落ち着いて居心地のよい学級をつくるのが、より配慮の必要なお子さんに傾注できるようになる、という好循環が生まれることを示唆していると思います。

（大井 透）

運営委員会報告

6月12日（水）に第1回運営委員会を開催しました。各担当から事業に関する説明を行い、委員の皆様から質問や意見をいただきました。

令和6年度運営委員会委員（敬称略）

越智康詞	信州大学教育学部教授
綿貫好子	社会福祉法人廣望会アトリエCoCo所長
小島孝則	時事通信社長野支局長
中島功雄	長野県中小企業団体中央会 (株式会社中嶋製作所社長)
佐藤裕美	更北中学校校長
小池 勲	若槻小学校校長
山岸ともみ	松代中学校教頭
丑澤智成	加茂小学校教頭

ご意見・ご質問(★)と教育センターの返答(◎)抜粋

1 新たな研修制度について

★相談件数が年々増加している。教育センターの相談体制充実と学校現場の負担が軽減されるよう期待している。

◎校内支援委員会の運営等も含め、学校現場の支援を工夫していきたい。

2 教員の研修について

★休業から復帰したタイミングで研修を受けることができるようにならないか。

◎国が実施している「教育研修プラットフォームを活用した研修の実施について検討する。

3 地域の人材活用について

★学区内の様々な専門性を持った団体等にご協力いただけると、先生の働き方改革に繋がるのではないか。

◎人材バンクの情報更新と利活用について情報発信していきたい。